

約二十町ニ當リ「サルベツ」本流ニ越ユル山道東方ノ一小溪間ニ滲出シ  
黒色ノ原油ナリ、地質ハ硬質頁岩ニシテ(第三圖地質圖參照)一ノ背斜軸  
ヲ形成シ兩翼ノ傾斜ハ十度内外ナリ、石油ハ頁岩ノ裂罅ヨリ滲出シ土  
瀝青ニ化ス、其南方ニ於ケルモノハ「ベンケエベコロベツ」右股河岸ノ畑  
中ニアリテ土壤ヲ堀下クルコト一尺内外ニシテ黒色ノ原油滲出ス、其  
附近ニハ岩石ノ露出少ナキヲ以テ地質構造ヲ詳カニ知ルヲ得サルモ  
成田牧場ニ現出スル背斜軸ト別個ノ背斜軸上ニ在在スルモノ、如シ、  
地層ハ處々ニ於テ錯亂スルヲ以テ試掘ニ際シテハ注意ヲ要ス  
「バンケエベコロベツ」產油地 天鹽國「バンケエベコロベツ」ノ中流ニ當リ  
北大澤ノ落口ヨリ稍上流ノ河岸ニ土砂中ヨリ石油滲出ス、其比重小ナ  
ル者ノ如シ、地質ハ硬質頁岩層ニシテ三十度内外ニ傾斜シ一ノ背斜軸  
ヲ形成ス、北大澤ヲ横斷スレハ「ベンケエベコロベツ」右股ノ產油地アリ、  
「バンケエベコロベツ」支流南ノ澤ノ下流ニアル石油ハ硬質頁岩層ヨリ  
滲出スルモノニシテ瓦斯ヲ伴ヒ頁岩ノ裂罅ヨリ上昇シ河面ニ浮游ス、

本地方モ亦背斜構造ヲ呈シ南方「バンケオツポツベ」ノ上流ニ達ス、其兩翼ノ傾斜ハ二十五度以内ナリ(第三圖地質圖參照)

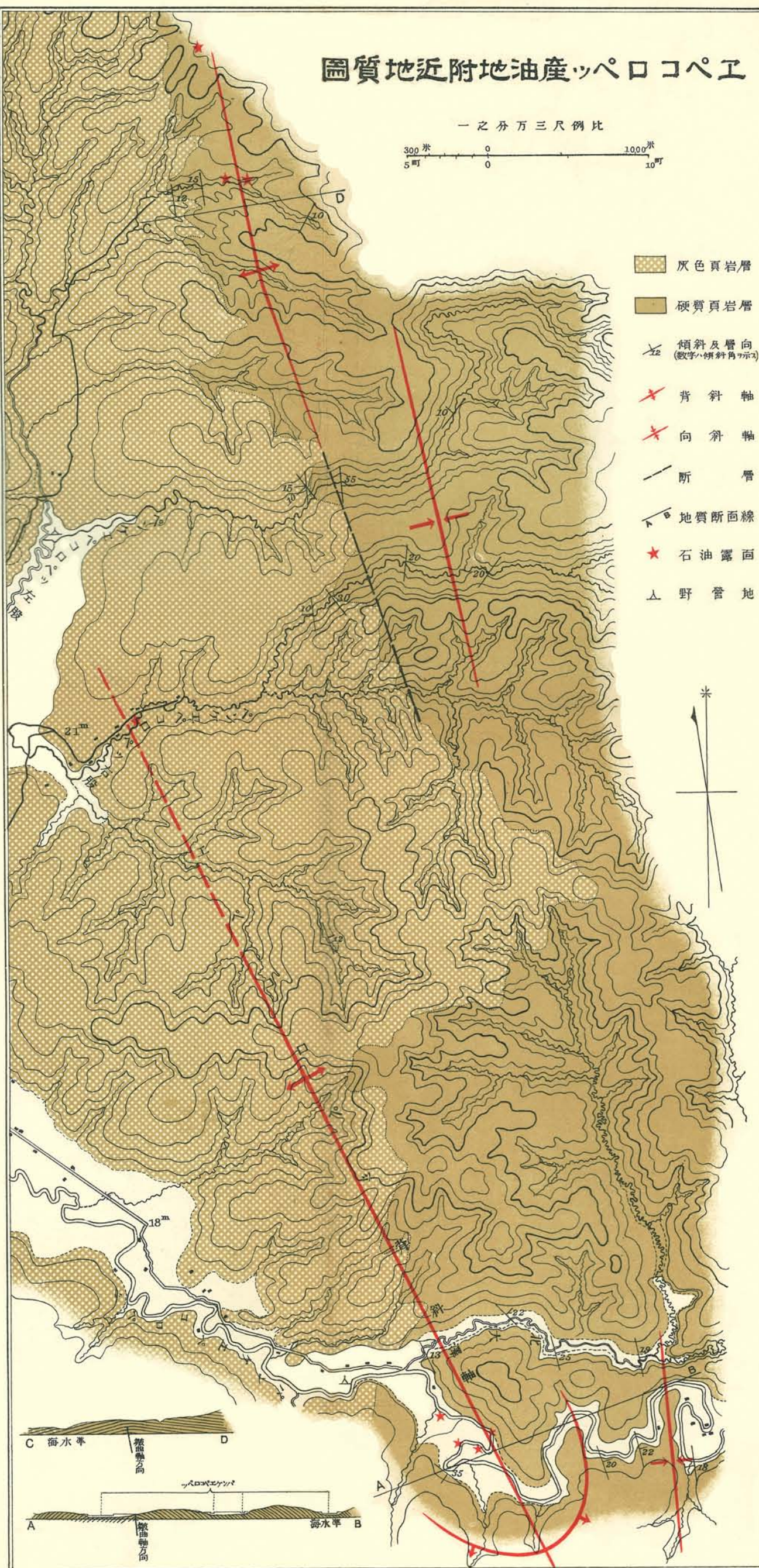
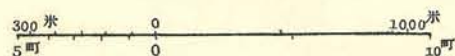
此外「バンケエベコロベツ」上流幌延炭山ニ近ク一小背斜軸アリテ(第一版地質圖參照)其附近ニ油臭アリ、恐ラク背斜軸ニ沿ヒテ石油ノ露面存在スルモノナラン

「バンケオツポツベ」產油地 天鹽國大曲ノ東方ニ當リ「バンケオツポツベ」上流及之ト一小峯ヲ隔テ、南大澤ノ上流ニ石油滲出ス、該地方ハ硬質頁岩ト薄キ砂質頁岩トノ互層ヨリ成ル、石油ハ濃綠色ニシテ砂質頁岩中ニ多ク含蓄セラル、本層ハ背斜軸ヲ形成シ「オツポツベ」上流ヨリ南方ニ沈降シ又南ノ澤ニ連續ス、而シテ兩翼ノ傾斜ハ三十度ヨリ五十度ニ達シ頗ル急傾斜ヲナセトモ穹窿狀ヲナシ石油蓄積ニ適セルカ如シ、該背斜ニ沿ヘル產油地ハ大曲ニ近キヲ以テ冠スルニ大曲產油地ヲ以テセリ(第四圖地質圖參照)

## 第五章 結論

工ペコロッ産油地附近地質圖

一 之 分 万 三 尺 例 比



高距ハ海面上二十米突毎二一線ヲ描ク

# 大曲産油地附近地質圖

比例尺三萬分の一

500米 0 1000米  
5町 0 10町

細粒砂岩層

灰色頁岩層

硬質頁岩層

傾斜及層向  
(数字ハ傾斜角ヲ示ス)

背斜軸

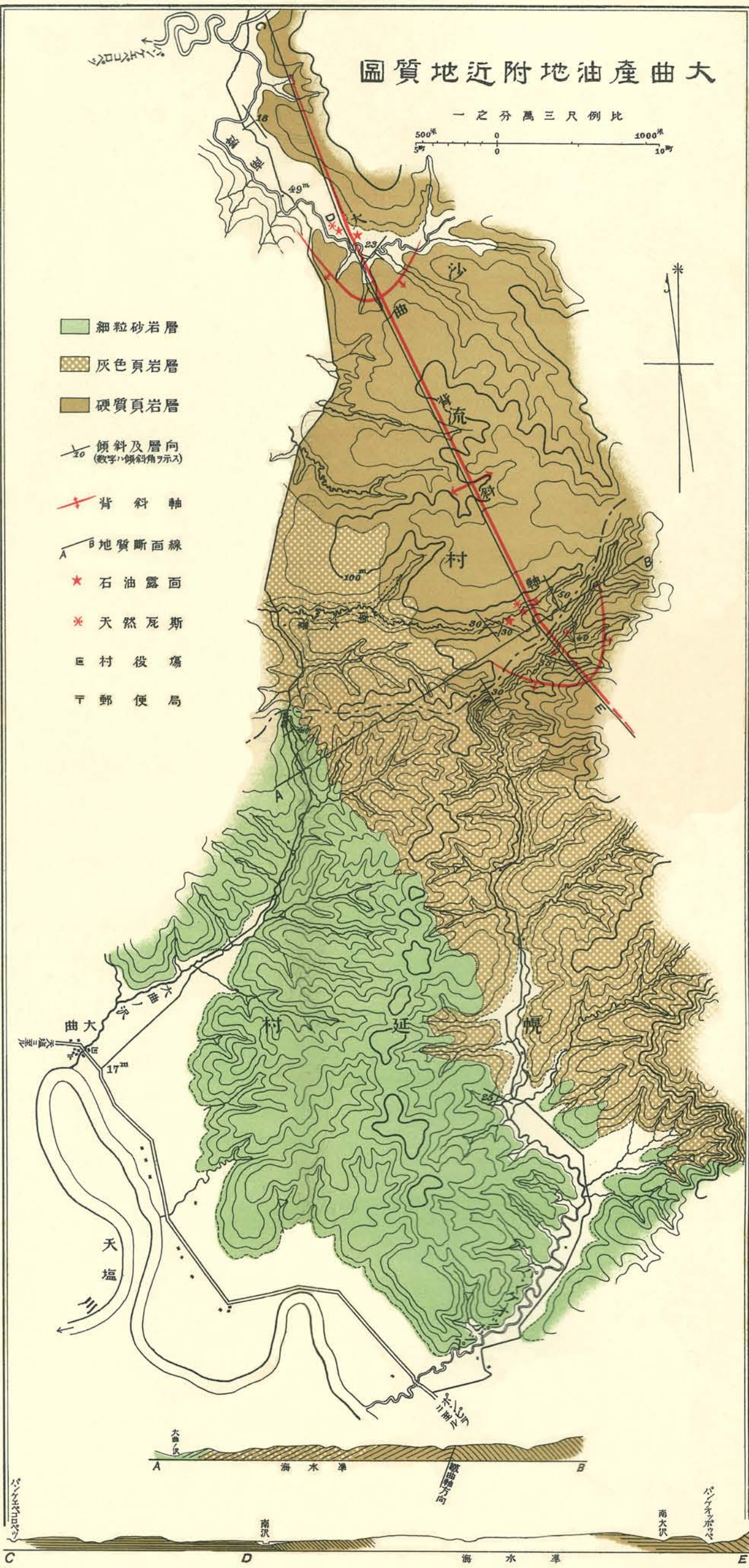
地質斷面線

★ 石油露面

✱ 天然瓦斯

村役場

郵便局



前述セル處ヲ以テ觀ルニ本調査區域内ニ於ケル上部第三紀層ハ到ル處ニ石油ヲ胚胎シ且ツ大小數多ノ背斜軸ヲ形成シ將來一大油田地トシテ發展スヘキ箇處少シトセス、然ルニ新油田開發ニ際シテ最モ留意スヘキハ試掘井ノ適當ナル位置撰定是ナリ、蓋シ石油ノ背斜軸ニ沿ヒテ蓄積セラル、ハ他油田ニ徴シテ殆ント既定ノ事實ナルカ故ニ石油井ノ位置ヲ撰定セントセハ先背斜軸ヲ目標トセサルヘカラス、而シテ此背斜軸中石油蓄積ニ適當ナル處ト比較的不適當ナル處トアルハ論ヲ待タス、背斜軸ノ上ニ於テ緩ナル穹窿狀構造ヲナセル部分ハ最モ囑望スヘキ所ナリ、之ニ反シ斷層ニ沿ヘル部分又ハ軸ノ急傾斜ヲ呈スル處ハ多量ノ石油ヲ蓄積スルニ適セス、幸ニ本區域内ニアリテハ背斜軸ニ乏シカラサルノミナラス目梨別背斜軸及稚内背斜軸ノ如キハ其延長頗ル長距離ニ互リ、尙「エベコロベツ」背斜軸、大曲背斜軸等何レモ其延長短シト云フヘカラス、加之兩翼ノ傾斜ニシテ處々ニ穹窿狀構造ヲ形成シ石油蓄積上頗ル良好ナル狀態ヲ呈スルモノ少ナカラス、故ニ地質

構造上ヨリ見タル本區域ハ油田地トシテ有望ナルモノト云フヲ得ヘシ

翻テ最モ必要ナル含油層ニ適當ナル地層ノ存在スルヤ否ヤヲ見ルニ地表ノ觀察ヨリスルトキハ概シテ稀レナリト云ハサルヲ得ス、含油層トシテ適當ナルハ多ク軟弱ナル砂岩又ハ砂質頁岩ニシテ本區域内ニ於テハ細粒砂岩及黑色頁岩中ニ挾有セラル、硬質砂岩ノ外殆ント著シキ砂岩ヲ認メス、而シテ本產油地ノ主要部ヲ構成スル硬質頁岩中ニハ唯「メナシクシユ」背斜軸附近ニ僅カニ砂質頁岩又ハ薄キ砂層ノ挾有セラル、ヲ目撃セルノミ、故ニ豐富ナル含油砂岩ノ存否ハ偏ニ今後ノ試掘ニ待タサルヘカラサルナリ、然レトモ「マクンベツ」支流十六線ノ澤ニ於テ本層ノ下部ニ稍厚キ蠟岩質砂岩ヲ挾有スルアリ、若シ該砂岩ニシテ本區域ノ地下ニ廣ク布衍シ同時ニ岩質軟弱トナルモノトセハ石油ハ之ニ多量ニ含蓄セラルヘキコトハ想像スルニ難カラス、石狩油田五ノ澤附近ハ本地方ノ硬質頁岩ト酷似セル岩層ヨリ成リ地表ニ於テ

殆ント砂岩ヲ認メ得サルモ掘鑿中屢々砂層ニ會シ相當ノ出油アルヲ以テ見レハ硬質頁岩ハ未タ俄ニ含油層ニ乏シキモノト斷定スルヲ得サルナリ

灰色頁岩中ニハ殆ント全ク砂岩ヲ有セスシテ上部ハ漸次砂質トナリ細粒砂岩ニ移過ス、本層中ニハ、多量ノ石油ヲ望ム能ハス

細粒砂岩層ハ岩質含油ニ適シ厚サ又大ナルモ構造上多クハ窪地ヲ形成シ勇知川上流ヲ除キテ囑望スヘキ地方ナシ

砂岩ヲ挾有スル黑色頁岩層中ニハ砂岩、蠻岩多キカ故ニ含油上稍有望ナルモ構造上適當ナル處少ナシ

本區域内產油地ニ於ケル石油蓄積ニ關スル地層ノ性質及其構造ハ前述ノ如シ、而シテ區域内ニ於テ試掘ヲ開始スヘキハ先ツ「メナシクシユ」ニ現ハル、穹窿部ヲ第一トシ、次テ「チカツパカルウス」聲間、大曲、「エベコロベツ」等ニ漸次着手スヘシ、然レトモ是レ只地質學上ノ見地ヨリ論シタルモノニシテ作業上ニハ交通運輸ノ便ヲ酌量セサルヘカラス